第 7 回アドバイザリーボード議事概要

1. 日　時　　令和 8 年 8 月 5 日（水）　14:30～17:00

2. 場　所　　都市センターホテル　スバル（東京都千代田区平河町 2-4-1）

3. 議　事

（1）開会

（2）挨拶（理事長）

（3）意見交換

（4）閉会

4. 出席者

（1）アドバイザー

石村　和彦　　産業技術総合研究所　理事長

小安　重夫　　量子科学技術研究開発機構　理事長（オンライン参加）

永田　恭介　　筑波大学学長

原山　優子　　東北大学名誉教授

（2）F-REI

山崎理事長、江村理事、髙谷理事、大本執行役、大和田執行役、
村田広域連携監、森下監事、茅野分野長、中山副分野長、秋田副分野長
錦谷副分野長　ほか

5. 議事要旨

F-REI から、最近の動向、研究成果の最大化に向けた研究開発の取組、運営マネジメントについてご説明した後、小安アドバイザーから、複数の拠点を持つ量子科学技術研究開発機構（QST）における研究開発マネジメントについてオンラインでご講演いただいた。

（アドバイザーの主な意見）

○　分野長や研究ユニットを含め、関係者全員が対面で集まる機会を設けることが重要。職員との関係構築や研究者間の連携、課題の共有にもつながる。

○　リサーチビジョンセッション（RVS）について、福島への地域貢献という視点からインパクトのあるテーマを設定し、現場・研究者による議論をプロジェクトにつなげるなど、「F-REI ならでは」の取組とすることが重要。

○　「世界最高水準の研究」と「福島復興に役立つ研究成果の社会実装」という 2 つのミッションを踏まえ、基礎的・特徴的な研究を担う組織と、RVS 等を通じて社会実装を目指すプロジェクト型の組織にマネジメントを分けることも検討すべき。

○　F-REI の予算が補助金を中心とした構造となっていることについて、組織の持続可能性の観点から、追い風があるうちに一般会計化や運営費交付金の確保に向けた働きかけを行うことが重要。

○　大学等に研究拠点が分散している現状を踏まえ、研究セキュリティ・情報セキュリティへの対応を十分に検討するとともに、福島ロボットテストフィールド（RTF）等についてはデュアルユースや安全保障上の課題も見据えて対策を講じる必要がある。

（以上）